



Chain Diary 展覧会の手引き

岡川卓詩
Chain Cycle
2008年7月7日(月) - 7月18日(金) (土・日は休み)
10:00 - 18:00
名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」

岡川卓詩氏への三つの質問

Q 展覧会のタイトルにある「Cycle」を普段、感じることはありますか。それはどんなときですか。

A トイレや歯を磨いている日常生活のふとした瞬間、鍵を閉めたかどうか覚えてない記憶が曖昧なときや、デジャ・ブを感じたとき、日曜日にサザエさんを観たときに思います。特に近ごろでは通勤中の車内でよく感じます。決められた目的地(ここでは職場や自宅ですが)へ移動してるときに多いようです。

Q 作品をつくるときにいつも考える、「キーワード」のようなものはありますか。また、そう考えるようになったきっかけがあれば教えてください。

A 制作する上で「コミュニケーション」「共有」など単語にすればいくつかありますが、最近は「欲望」「場」「移動」「ベクトル」がキーワードとしてよくできます。そのきっかけは、旅をしているときが多いです。ベタですが……。最初は、高校生の頃に東北を一人旅したときです。それから何年か経ってアメリカやヨーロッパをまわった後に、何気なく行ったタイ(ランド)で大きな刺激を受けました。この二つの旅で感じたことや考えたことは、いまだに頭の中をめぐり、制作のベースになります。

Q 「Chain Cycle」のゆくえは？

A う〜ん、どうなっていくのでしょうか。「Chain」にはなりたくないし……。「Cycle」になっていく作品は作りたくないし……。いま思うと僕の嫌いな単語を並べた、タイトルみたいですが。でもタイトルにした以上、何かしら必要で素敵な言葉だと思ってるかもしれません。なかなかそれからは抜け出せないかもですね。